

甲斐 顕一（かい・けんいち）先生

株式会社ドワンゴ・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長

平成 17 年 5 月 株式会社ドワンゴ入社 制作管理部長就任
平成 17 年 12 月 株式会社ドワンゴ・ミュージックパブリッシング
（DMP 社）代表取締役社長就任
平成 19 年 5 月 株式会社ドワンゴ・AGエンタテインメント
（DAGE 社）代表取締役社長就任
平成 21 年 2 月 株式会社ドワンゴ アライアンス推進本部
本部長就任
平成 21 年 12 月 DMP 社と DAGE 社の両社が合併して設立
された新会社、株式会社ドワンゴ・ミュージック
エンタテインメント代表取締役社長就任



《講義概要》

株式会社ドワンゴ・ミュージックエンタテインメント代表取締役社長として、権利関係の法務に携わり、エンタテインメント産業の発展に尽力する甲斐顕一氏が、ネット時代における著作権管理についての講義を行った。

講義では、レコードビジネスに関わる著作権や音楽著作権使用料徴収の基本構造について分かりやすく解説した後、「初音ミク」の大ヒットに伴い変化した著作権管理の実態と今後の課題について説明。まず、ネットクリエイターと JASRAC の関係やそこに生じた著作権管理の問題について解説し、ネット社会における著作権管理の難しさや複雑な構造を示した。

また、二次著作物の管理について、ネット利用者の著作権に対する思想と著作権保護との調和点を見出すことが今後の大きな課題であると指摘した。さらに、現在の支分権分類では対応仕切れない分野・機能が登場し、ネット社会に対応した新たな著作権管理の形態が求められていることを伝えた。

デジタルネット技術が飛躍的に発達する中で、複雑化する著作権管理について、必要な知識と考え方を示し、学生に深く考えるきっかけを与えた。

《受講生の感想》

●コンテンツをネットで共有する際に発生する様々な権利、商業的問題を学ぶことができた。JASRAC が全てを管理しているイメージを持っていたが、クリエイター、アーティスト、プロダクション、それぞれの権利を尊重したビジネスであると改めて感じた。しかしながら、アマチュアが台頭してくることで感情面での配慮も必要になってきたあたり、ネット時代において柔軟な対応をしていく必要性も感じた。

同志社大学・社会学部・3 回生

●部分信託を扱っている音楽出版社はまだ少ないと思うのだが、今後は色々な信託パターンに対応できる出版社が求められていくと思う。ネット時代における著作権管理としてボーカロイドの著作権信託は今後のネットにおける音楽の在り方の見本になると思う。今後は曲の権利行使が音楽業界にとって重要な仕事になっていくと思う。 立命館大学・産業社会学部・3 回生

●アーティスト（実演家）、レコード制作者、作詞家、作曲家、それぞれに違った著作権が存在するのを知り、とても驚きました。音楽著作権使用料の徴収の基本構造の図を見ると、かなり複雑な構造になっていて、著作権の管理はとても大変でかつ重要なことであるのを知ることができました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●著作権は数値で表せなかったり、絶対に客観的に決められるという尺度もないために管理が難しいということを再認識しました。ネットの普及が進み、初音ミクのような難しいケースが出てきてしまうと思うので、ユーザー側も知識をつけていかなければいけないと思いました。そのために、大学や高校でもこのように講義する機会が増えたら良いのではと思いました。

立命館大学・国際関係学部・3 回生

●動画投稿サイトなどが普及し、著作権を守ることがより重要視されるようになってきていると思います。そのような中で、新たな著作権保護のための対策がなされていることが今回の講義で分かりました。しかし、著作権を守っていくために必要なことは、やはり投稿する側のモラルだと思います。私たち利用者に求められているのはマナーあるネット利用だと思います。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●最後におっしゃられた「著作権は人々の心の問題もあるので、新しい柔軟な考えが必要だ」という言葉は、これからのデジタル時代を生きていくためには最も大事なことだと思うので、今自分が何を意識すべきかを常に考えて生きていこうと思う。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

